

田舎・山育ちの亡父追想

椎窓たけし

亡父の生誕 遠き明治も初年代

肥後のくに境 伊良戸

“イラド”と呼ばれた奥深き山郷

藁屋根の大屋敷

夜は “いろり火” ちろおろ

学問好きの父ヒトシは

ランプ灯して 論語 読み

大正六年 百姓の身分に

学問不要の一家の声を

おしきつて、福岡農学校

受験、首尾よく合格

わが家の座敷には

大正九年 春 三月

優等生の賞に卒業証書を

残し掲げている

今に老いて 感無量の想いで読み

それから、イラドの円型状の遠き山仰ぐのである